

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400920		
法人名	株式会社メディウエル		
事業所名	グループホームみつわ台桜レジデンス		
所在地	千葉市若葉区みつわ台1-1-4		
自己評価作成日	令和 5年 10月 18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	文書(書面)報告、令和6年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面には特に力を入れています。ご利用者の日々の変化に気を配り、医師と看護師との綿密な連携を図っています。
 食事は管理栄養士が立てた献立を基にバランスの良い家庭料理を提供しています。食事の準備や洗濯物干し・たたみ・お掃除などの簡単な家事をはじめ、個々に応じた力を発揮出来るよう趣味を活かした活動を通して、張りのある生活が送れるよう援助させて頂いております。
 自立支援の視点から、ご利用者の出来る事、できないことを把握し、その方が必要とされていることを感じて頂き安楽で幸せな生活が送れるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療系法人の運営するグループホームで、感染症対応には特に配慮しつつ、本人・家族の気持ちやQOLに配慮して可能な限り孤立しないように努めている。5類移行後はいち早く自治会の清掃活動や桜まつりに参加したり、楽器演奏や合唱のボランティアの受け入れなど、平常を取り戻す活動を進めている。インフルエンザの流行などで制約も多いが、機動的に判断して可能な限り本人・家族の要望に応えようとしている。
 毎月のケアカンファレンスでは、一人ひとりの状況を関係職員全員で話し合い、共有して、理念である「科学的かつ適正な医療と介護」で支え「健康で楽しい余生が過ごせるように」をモットーに日常支援に取り組んでいる。
 今回実施した利用者アンケートでは「明るく温かく家庭のような施設」「寄り添い良く見てくれる」「得意とすることをやらせてくれる」「食事おいしい」などと、感謝のコメントを多く頂いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 株式会社メディウエル	理念をフロアーに掲示し、内容を理解した上で、意識化し、認知症ケアを共有・実践していける様日々の支援に取り組んでいる。	5項目からなる理念は各フロアーに掲示している。毎月ユニット別にケアカンファレンスを実施し、利用者ごとの変化を共有して、一人ひとりに対して理念に沿ったケアが提供できるように話し合い、取り組んでいる。	
2	(2)	グループホームみつわ台桜レジデンス 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、自治会の清掃に利用者と職員が参加し、近隣の方々に、積極的に挨拶言葉掛けをしている。	コロナ5類に移行後いち早く自治会の清掃活動や桜まつりなどに参加、楽器や合唱などのボランティアの受け入れなど、状況を見ながら可能な限り交流が図れるように配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの前の歩道の落ち葉掃きなどしていると、近くの方など声を掛けて下さり会話されたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面開催となっているが、利用者様ご家族に電話をしたり、ホームの月報にお手紙を同封したりして、意見や改善点を聞いている。	運営推進会議は現在も書面開催で年4回開催している。区の安心ケアセンターや家族からは事前にご意見や提案を頂くとともに、議事録を送付し、会議に反映させている。	状況を見て面談で意見交換のできる会議の再開を期待したい。時にはZOOMなどを活用した運営推進会議の開催もご検討頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話等で事業者の実情やサービスの取り組みを伝えている。生活保護利用者5名在籍されており、区の担当者、後見人とは連絡を密にしている。	コロナ禍以降区の担当課とは都度電話やメールでの交流が中心となっている。特に生活保護利用者への対応については、区の担当者や後見人との連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、またホームでもミーティングをし、身体拘束となる具体的な行為や弊害について理解している。基本的な生活を守るケアに努め利用者の状況を適切に把握しケアの工夫を行い身体拘束ゼロに取り組んでいる。	内部研修では身体拘束、虐待防止、介護技術の向上などを軸に年間研修テーマを設定し、理解を深めて、適正な介護に努めている。身体的拘束適正化検討委員会は運営推進会議開催時に年4回開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしないケアの理解を深め、虐待が見過ごされる事が無い様、研修を行い、虐待に関する共通認識を持つように努めている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	
			実践状況	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には後見人制度を利用されている方がいらっしゃいます。研修の機会を持ち、日常生活自立支援事業、成年後見人制度について学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、重度化、改定等に際しては、利用者ご家族の権利や義務を分かりやすく説明し、質問に応じ、十分に理解・納得して頂ける様に努めている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会及び、電話連絡時に報告に加え意見や要望を尋ね運営に反映させている。利用者には、日々の会話の中で意見や要望を聞き、運営や支援に反映させている。	5類以降は出来るだけ自由に面会できるように配慮しているが、制限や解除を機動的に行っている。コロナ禍中もZOOMでの自室でのコミュニケーションの支援も行ってきた。家族や後見人とも連携を密にしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内は日常的に発言しやすい環境にあり主に申し送り時間を利用して、意見や提案を出し合い、運営に反映させている。	ユニットごとの毎月のケアカンファを兼ねたミーティング時や随時の小打合せなどで職員の意見や要望を出し合い、運営に反映している。介護方法だけでなく、各種改善提案なども多く提案されている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や資格取得により昇給の仕組みがある。希望に沿った勤務が出来る様、配慮されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内年間研修計画は各自が研修したい内容を出し合い決めている。施設外研修は、その職員が必要とする研修を受けられる様また、平等に研修に参加出来る様配慮し職員の知識、技術の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会に所属しており、勉強会、研修会などで意見交換をしている。定期的開催される区サービス事業者研修に参加を促している。	

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談、見学時にご本人の不安、要望等を傾聴し、誠実に丁寧に対応説明し信頼して頂ける様努めている。利用前であっても、いつでも相談に応じられることを伝えている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学時に困っている事や不安な事を伺い、思いを受け止め丁寧に説明している。利用前でも相談に応じられる事、空床があれば体験入居が出来る事も伝えている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時、生活面や健康面、経済面等の状況を把握し本人に適したサービス利用が出来る様に地域包括支援センターとも連絡を取り対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事の準備や洗濯物干し、たたみをしたり、利用者の得意な事を活かしながら共に暮らしに寄り添う関係を大切にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙にて近況報告をし、心身の健康状態や生活の様子を把握してもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの人とテレビ電話で通話したり、外食をされたり、宿泊されたりする機会を職員と連携しておこなっている。	未だ安心しての外出や人との交流は難しい状況はあるが、気を付けながら馴染みの関係が途切れないよう支援している。家族にはZOOMや毎月のホームだよりで様子を知らせている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの性格等を把握し、気の合う同志が交流を楽しめる様また、トラブルが無い様工夫している。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも相談や支援が出来る状況をご家族に伝えるなどしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を伺ったり日頃の会話でそれらを引きだせる様に心掛けている。困難な場合言動などで読み取り職員間で検討している。	家族から話を聞き、利用者一人ひとりのコミュニケーションを大切に、本人の思いや暮らし方の希望に添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣など十分にアセスメントを行い、ご家族から本人やご家族とのコミュニケーションを取る中で情報収集し把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を記録し、申し送る事で変化などを職員間で情報を共有し、現状把握に努めている。毎日のバイタル、食事量、排尿チェックなどで健康状態を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや日々の申し送りで話し合い、介護計画の評価見直しを行っている。職員間で話し合いご家族にはその都度意見を求め介護計画を作成している。	アセスメント・モニタリングは介護支援専門員が行い、課題を把握し毎月のミーティングの中で全員のケアカンファレンスを行っている。見直しが必要な時には話し合い、現状に即した介護計画を作成し家族にも説明し了解を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践状況経過、日々の様子から気付いた事は記録、情報共有し実践に活かしている。介護計画にも記録し評価見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ買い物や衣類等の補充、通院、緊急時の支援が出来る様に柔軟な対応を努めている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桜の時期はホームの前の桜並木を楽しみながら、みつわ台桜まつりに参加できるような支援をしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には経過や生活の様子等の情報を提供し、医師からは観察事項や生活上の注意事項の指示を受け利用者が適切な医療が受けられ、健康管理で異常の早期発見が出来る様、看護師に報告し医師との連携に努めている。	入居時にかかりつけ医の変更をお願いし、医療法人と連携を図り、医療面に力を入れている。体調に変化が見られた時には職員の看護師に看てもらい状態の判断をしている。医療機関とは24時間対応可能な体制を組み、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と医療連携体制を取り日常の様子、変化等を報告しながら気に掛かる事は随時相談し必要時に迅速、適切な対応が出来る様24時間相談体制が取られている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応、医師からの説明と一緒に聞いたり支援方法などの情報提供をしている。コロナ禍で入院中の見舞いは出来ないがソーシャルワーカーとの連携を計り早期退院と帰所後の適切なケアに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のアセスメントの際にはターミナルの意向確認を行っている。ホームで出来る事出来ない事についても十分に説明し納得頂ける様努めている。	重度化や終末期に向けた事業所としての方針は入居時に説明している。これまでの看取りの経験から家族・関係者とチームを組んで臨んでいる。家族、親族も初めて看取りを経験される方が多く不安な気持ちがあるので、一緒に過ごせるよう配慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務ミーティングでの勉強会を重ねている。緊急時マニュアル、事故防止及び、対策マニュアルを作成し、熟知徹底すると共に研修しいつでも対応出来る様になっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応マニュアル、救急搬送手順、連絡方法を整備、市主催の救命救急を積極的に受講、災害時に迅速適切な行動が取れる様、利用者と共に防災避難訓練を実施している。	コロナ禍時には災害時の避難訓練は思うようにできなかったが、緊急搬送手順、連絡網、危機管理対策を整備している。夜間を想定した避難訓練を実施し、災害時の備蓄も3日分用意し、近くの施設との連携体制もできている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の権利、人権を常に意識して適切な言葉遣いに対応に努めている。	利用者・家族の了解を得て愛称で呼ぶこともあるが、プライバシーを尊重し、気持ち良く過ごせるよう努めている。特に羞恥心に配慮したトイレなどへの誘導時の声掛けや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が思いを表現出来る自己決定が出来る環境作りや言葉掛けを行っている。表現が困難な方には言動や行動からニーズを読み取り代弁するよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の趣味や生活のペースを把握理解して、楽しみを持ち居心地良く生活出来る様に支援している。活動や行事への参加は個人の意思を尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好み、これまでの習慣を尊重しながら清潔を心がけ、季節や場所に応じた衣類等のアドバイスをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に合った料理や季節感のある食事が提供出来るように努めている。一人一人の力に応じた役割を持ち共に食事の準備や片付けをし食事を楽しんでいる。	食材は宅配の物を利用したり、利用者と買い物に出かけたりしている。行事食や祝い事を皆で楽しめるよう利用者と献立を考え、準備から片づけまで役割を持って参加できるよう配慮している。口から食べることを大切にし、食事時間を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てたバランスの良い献立を基に個々の状態に応じて形態や量を変え楽しく安全に食事が出来る様に支援している。食事や水分摂取量をその都度把握して健康管理に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた援助で起床と毎食事後の計4回の口腔ケアを行っている。ご自分で出来ない方には援助にて肺炎予防に努めている。訪問歯科の来訪もある。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し排泄の失敗が無い様に声掛けや誘導を行いプライバシーを損ね無い様に気をつけている。	日中は排泄パターンに応じて、トイレへの誘導で自立にむけた支援に取り組んでいる。夜間はオムツの使用やスタッフの誘導で不快の無いよう対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで状況を把握し看護師、医師と連携を取り個々に合った排便コントロールを行っている。繊維質が多い食材をおやつにしたり水分を十分に取る事を心がけ便秘の予防につなげている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1～2日おきに行っており湯の温度や入浴にかかる時間を一人一人の好みに合わせ、その日に入浴をするしないや順番等の希望に添える様にしている。	入浴は利用者の希望とタイミングを大切にしている。ゆっくり入れるよう配慮している。入浴拒否の方には対応を替えたりその気になるまで待つ等の工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じ居室やソファ等でくつろいで休息を取れる環境を作っている。日中に活動の場を多く提供し夜間安眠の生活リズムが整うよう支援している。室温や湿度も季節に応じて調整している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師と対応し服薬管理は特段の注意を払っており、職員が利用者の副作用や用法をいつでも確認できるようファイルにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力に応じた役割を家事や活動の場で持って頂き、また、趣味を続ける事で楽しみを持てる支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物での気分転換はコロナ禍にて中止していたが、可能な範囲で再開をしている。	コロナ禍で中止していた近隣の散歩や少人数での買い物、ドライブを徐々に再開しており、出来るだけ本人の希望に沿えるようにしたいと考えている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは基本的にホームの管理となっているが、細かな買い物は利用者の力に応じ支払えるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿い日常的な会話を電話でしたり、賀状を書く援助をしたり、援助する事で利用者の交流関係が継続出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は常に職員を確認でき、安心できる間取りになっている。季節感のある装飾や花で生活の彩りを備えながら温かな家庭的な雰囲気の中で過ごして頂ける様努めている。	利用者の落ち着く間取りで、室内にいても季節を感じられるような手作りの装飾や花が飾られている。換気、空調、採光にも配慮し安全・安心に過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の落ち着く場所でテレビを観たり、編み物、ぬり絵、本を読む事など又、気の合う同志で談笑しつろいで過ごされている。状況に応じ座る場所へ誘導し孤立しない様に気配りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時利用者、ご家族と相談し、馴染みや思い入れのある家具や物を置き、その人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室作りをしている。入居後も相談しながら、その時の生活に応じた居室になるよう工夫している。	居室には利用者、家族と話し合い使い慣れた家具や馴染みの物を置いている。手伝いの出来る方は職員と一緒に掃除を行い清潔、安全に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を把握し補助具の使用や理解しやすい様に張り紙を利用するなど環境整備にも気を付けながら出来る限り自立した生活が安全に送れる様に工夫している。		